

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	チャレンジA(整備士)		授業コード	N100151
担当教員名	担当者未定		科目ナンバリングコード	N31001
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	航空工学基礎、航空機構造装備、航空宇宙材料、タービンエンジン、航空宇宙電気電子、航空法規を受講していることが履修する上での条件です。			
受講心得	本授業は国土交通省航空局主催の国家試験「航空整備士学科試験」にチャレンジし合格することを目的としています。その為過去問題を例にとって学習し、しっかり自習することが必要です。教科書はありませんが、関連科目で使用した教科書等は必ず持参してください。			
教科書	なし			
参考文献及び指定図書	航空整備士学科試験問題集(問題編・解答編) 航空工学講座 全シリーズ(日本航空技術協会)			
関連科目	航空工学基礎、航空機構造装備、航空宇宙材料、タービンエンジン、航空宇宙電気電子、航空法			

授業の目的	本授業はこれまで学習した航空機関係の講義やこれから学習する講義の理解を深め、年3回実施される国土交通省航空局主催の「航空整備士学科試験」にチャレンジすることを目的としています。
授業の概要	航空整備士学科試験の4科目「航空法規」、「機体」、「装備品」、「発動機」について、過去問題を参考に、それぞれの項目についてその内容を深く掘り下げて学習します。この時に関連科目で使用する教科書及び日本航空技術協会発行の航空工学講座で解説します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：航空力学 航空力学に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。	テキストで予習・復習
第2週：航空力学 航空力学に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。	テキストで予習・復習
第3週：機体関連 機体関連に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。	テキストで予習・復習
第4週：機体関連 機体関連に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。	テキストで予習・復習
第5週：機体関連及び科目試験 機体関連に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。「機体」科目試験を実施します。	テキストで予習・復習
第6週：発動機 発動機に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。	テキストで予習・復習
第7週：発動機 発動機に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。	テキストで予習・復習

第8週：発動機		
発動機に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。		テキストで予習・復習
第9週：発動機及び科目試験		
発動機に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。「発動機」科目試験を実施します。		テキストで予習・復習
第10週：電子装備品等		
電子装備品等に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。		テキストで予習・復習
第11週：電子装備品等		
電子装備品等に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。		テキストで予習・復習
第12週：電子装備品等		
電子装備品等に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。		テキストで予習・復習
第13週：電子装備品等及び科目試験		
電子装備品等に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。「電子装備品等」科目試験を実施します。		テキストで予習・復習
第14週：航空法規等		
航空法規等に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。		テキストで予習・復習
第15週：航空法規等及び科目試験		
航空法規等に関する過去の国家試験問題を参考に学習します。「航空法規等」科目試験を実施します。		テキストで予習・復習
第16週：期末試験		
これまで学習したすべての内容の理解度を確認するため期末試験を実施します。		期末試験
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	航空整備士に強い関心を持ち、「航空整備士学科試験」にチャレンジし合格するという強い意欲を持つ。
【知識・理解】	航空機全般に渡って、基本的な知識を十分理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	

【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	30点		20点
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	50点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	授業への取り組み姿勢および態度を評価の対象とします。